

令和元年度 事業報告について

1. 生命地域妙高環境会議の開催

- ・環境会議 総会（5月20日） *令和元年度総会

2. 妙高山火打山における入域料の導入

○地域自然資産法に基づく入域料の導入に向けて、実証実験と地域計画策定に向けた検討を実施

- ・第1回検討部会 令和元年度入域料社会実験について（6月20日）
- ・第2回検討部会 地域計画（素案）について（12月16日）
- ・第3回検討部会 地域計画（案）について（2月12日）

2. 生物多様性保全活動の推進

○オオハンゴンソウやいもり池のスイレン等の外来生物の駆除活動の実施

- ・オオハンゴンソウの駆除 いもり池周辺（6月10日、7月28日、随時花芽除去）
妙高高原ビジターセンター事業
笹ヶ峰高原（8月21日） 延べ70人参加
- ・スイレンの駆除 いもり池（6月26日～28日）地元地区との協働
（10月2日～4日）地元地区との協働 延べ60人参加
*スイレン根絶に向けた検討を行うため環境省事業で湖底調査を実施（11月～12月）
- ・火打山登山道オオバコ駆除登山（8月11日）

○高山植物等の保護に向けた啓発活動の実施

- ・盗掘禁止看板の設置 笹ヶ峰、杉野沢、池の平、関、燕（6月5日～10月31日）

3. プロジェクトの推進

○火打山自然再生プロジェクト

- ・ライチョウ保護に係る火打山協働環境保全活動（イネ科植物の調査2回）延べ44人参加
- ・イノシシ、ニホンジカによる高山帯における食害対策（5月、駆除活動を実施）
- ・ライチョウ行動把握調査（繁殖期、非繁殖期）

○奥山、里山、里川の再生・保全プロジェクト

- ・いもり周辺におけるヨシやブラックバスの除去、駆除 妙高高原ビジターセンター事業
- ・国有林内でのニホンジカ行動把握調査（GPS装着）
*ニホンジカ2頭（笹ヶ峰・関山）にGPSを装着し、冬期間の行動把握等を調査
- ・自然保護団体を中心とした里山の整備
*杉野沢地区における鳥獣害対策のための緩衝帯整備

- ・里山保全クラブの活動

- *小丸山丘陵地、高床山森林公園環境整備（間伐、除伐、草刈等）

○自然体験プロジェクト

- ・自然体験型プログラムの提供

- （妙高高原ビジターセンター、国立妙高青少年自然の家、妙高市）

- ・妙高野尻湖 Sea to Summit（7月）、信越五岳トレイルランニングレース（9月）の開催
- ・宿泊型新保健指導「妙高高原健康ツアー」や妙高高原体育館を拠点とした「健康保養地プログラム」の実施及び普及啓発

4. 情報発信機能の充実

○環境会議ホームページ作成等による妙高の自然環境の魅力や保護・保全活動、また環境イベント等に関する情報発信の充実

- ・生命地域妙高環境会議公式ホームページの運営

○環境省による火打山登山道でのスマートフォンを活用した自然環境等の情報提供システムの運用による登山者への情報発信

- ・ビーコン設置（撤去）及び火打山やまナビの運用 ※ダウンロード者数 760 名

5. 環境会議サポーターズ活動

○環境会議が進める生物多様性保全活動や自然体験活動等への協力

- ・R2.3月末現在で109名が登録
- ・いもり池スイレン除去、ライチョウ生息環境保全活動、オオハンゴンソウ除去等へ協力
- ・スキルアップ講習会の開催

- テーマ：「火打山のライチョウの現状と課題」

- 講師：新潟ライチョウ研究会 長野康之氏

- 事前学習会：40名参加

- 現地学習会：27名参加

6. エコツーリズムの推進

○エコツーリズム推進に向けた取組

◆妙高高原ビジターセンター関連

- バードウォッチング、野草茶作り教室、妙高きのこと観察会、夏休み親子自然教室、スノーシュートレッキング 等（延べ710人）

◆国立妙高青少年自然の家

- MYOKO チャレンジ（統合型長期移動キャンプ）、妙高自然体験活動指導者養成研修、親子トレラン教室、NEALリーダー（自然体験活動指導者）養成研修 等

◆市関連

- 平丸ふれあいの森 6月2日 70名参加（地元実行委員会への業務委託）

7. 自主財源確保に向けた取組

○クラウドファンディングの実施

【概要】

プロジェクト名：日本最北限「火打山のライチョウ」を、絶滅から救いたい！

寄付受付期間：10月9日～12月20日

寄付金総額：1,084,000円

寄付者総数：191名

寄付金使途：火打山ライチョウ個体群分布状況調査（令和2年度実施）

○郵便振替、かざして募金等において82,349円の寄付金を確保

○妙高戸隠連山国立公園（妙高山・火打山）における入域料等に関する社会実験の実施

【概要】

（1）実験の目的

自然環境の保護などに必要な経費を行政だけではなく当該エリアの利用者からの入域料等でまかなう仕組みについて、事業手法や収受の方法、留意点等を取りまとめて課題等を整理することも目的として、地域自然資産法に基づく入域料等の導入に向けた社会実験を実施したものの。

（2）実施期間・場所

令和元年7月1日（月）～10月31日（木）

- ・笹ヶ峰登山口 午前5時～午前10時 収受員による、協力金箱も併用
- ・燕温泉登山口 午前5時～午後5時 協力金箱による
- ・新赤倉登山口 午前8時～午後4時 協力金箱による

（3）社会実験の結果

①自然環境保全協力金について

各登山口に係員を配置し、登山者に自然環境保全に係る協力金（500円）の寄付を依頼（一部、募金箱の配置のみ）。

- ・協力者数：5,433人（登山者以外の協力者も含む）
- ・金額：3,706,039円（500円以外の金額も受付）
- ・協力率：67.63%（登山者数8,035人 協力者数5,433人）
- ・R2自然環境保全充当費：1,887,792円

②アンケート調査について

下山された方に、自然環境や登山道に関するアンケート調査を実施。

※アンケート結果は別紙のとおり

（4）その他

入域料の本格導入に向けて、検討会議を設置し有識者や関係行政機関から意見をいただきながら、地域自然資産法に基づく地域計画（案）を検討。